

団 体 名

ウィメンズヘルスlab

活動目的

女性が自らの健康に関心を持ち、積極的に病気への予防と早期発見を行い自らの健康を維持できるよう支援する。
ウィメンズヘルスサポートの具体的活動事業
【1】乳がん・子宮頸がんの早期発見のための講座開催
【2】乳がん・子宮頸がんに関する情報提供と相談業務
【3】乳がん・子宮頸がんの当事者へのサポート



背景・課題

現在、2人に1人が、がんになる時代。仕事やプライベートで乳がん・子宮頸がんの罹患により亡くなる人や、妊娠継続が出来なくなる人を多く見てきて、女性特有のがんによる女性の心身へのリスクの大きさを身近に感じていた。がん検診や自己検診により病気を早期発見することで、女性が自らの健康を維持できるよう支援したいと思った。
現状は、乳がんや子宮頸がん検診の受診率が低く年々罹患率と死亡者数が増加している。どうしたらがん検診の受診率を上げてがんを早期発見して、死亡率を下げる事が出来るか日々考えて活動している。

ミッション

講座を開催して活動を知ってもらい、女性自らの意志で自己検診やがん検診を積極的に受けてもらう。

事業内容・成果

事業名「女性特有のがん講座」
①乳がん・子宮がんの基礎知識の説明
②乳がんを体験された方から体験談
③乳がん模型を使用した自己検診方法とがん検診のススメ
④予防のための生活習慣のススメ
参加人数49人（託児10人）
事業の目的は「検診に行ってもらいたい」ということ。アンケートを見ると、「検診に行こう」と思ってくれた方がたくさんいた。その理由には、「体験者の話で大変さを実感した」「触診のやり方を知れたので自分でやってみようと思った」「触診モデルを使ったのは初めてで勉強になった」などがあり、がん検診の大切さが皆さんに伝わったようでよかった。

今後の課題

・乳がん・子宮がんの両方の基礎知識の内容が多いため、情報を精査して分かりやすく伝えていくことが必要。
・乳がんの自己検診は乳がん触診模型を使用し、ゆっくり、丁寧に、時間をかけて行うことで実施の確実性を高めていくこと。

展望

・草の根活動として、出来るだけ多くの場所で「女性特有のがん講座」の出前講座を行い、女性特有のがんの周知に努め、不安の解消や健康増進を図っていきたい。
・乳がん・子宮がんの当事者への相談業務による心身へのサポート。

最終目標

乳がん、子宮がんの死亡率を減らす！！

補助金を活用した感想

団体を立ち上げたばかりで予算がなかったが、講座を開催するにあたり広告宣伝費（チラシ・ポスター）、会場設営費（会場代・託児費）、備品（文房具・乳がん触診モデル）、団体の活動リーフレット等に補助金を活用できたことで、講座をスムーズに開催できたと感謝している。

補助金活用のコツ

何か人の役に立つことをしたいと思っていても賛同してくれる仲間や人は必要。そして、自分たちの目的を広く知ってもらい賛同してもらうために広告が大切。そのために必要な物品も当然必要。補助金を目的実現の第一歩として活用しない手はありません！

上村教授コメント

初年度とは思えない内容。補助金額も多くない中でこれだけのことができたのはすばらしい。本来的には市がやるようなこと。何年かやってると相当感謝される内容だ。今後も頑張ってほしい。

団体名

てらどまり若者会議～波音～

活動目的

寺泊を盛り上げ、若者が住みたくなるようなまちにしていこうと、寺泊在住・出身の若者が中心となって様々なイベントを行っている団体。



背景・課題

若い人達の意見が欲しいとまちの会議に呼ばれても、まちづくりを頑張っている人や行政の人ばかりしゃべって、若い世代はぼつんとしてしまう。若い意見が欲しいなら言えるような環境にならないと何も言えないと思った。今までの人たちの功績があるから色々できるが、自分たち自身が立ち上がってやりたいことを前面に出していかないとだめという気持ちで活動している。

活用事業

・波音大漁祭（大玉送り）
始めは町民運動会を復活させてくれと言われたが、昔と同じことはしたくなかった。そこで、町民運動会の種目の中で楽しかった「浜大漁」という大玉送りに似た競技をピックアップし、やりたい人、出たい人だけを募集する形で企画した。全体で16万円の事業で、12万円ほど補助金を活用。使途はボランティアのお弁当や、チラシ印刷費、事務用品、イベント保険等
・魚を釣って、捌いて、食べるイベント
子どもたちに寺泊の海のよさを知ってもらい、食育も行おうと企画。2時間くらい釣りをして色々な魚が釣れた。料理人が捌き方を教えてくれて、水族館の職員が魚の身体の構造を教えてくれて、地域の女性たちに番屋汁を作ってもらい、知り合いの漁師がイベントに共感しお土産の鯛を提供してくれた。事業費計35万円のところ補助金は18万、イベント参加費は16万くらいだった。一組5000円の参加費だったが、定員30組のところ、90組の応募が来た。用途は大漁旗や調理消耗品、チラシなどで、チラシはデザインを団体メンバーに頼んで印刷をネットで頼むととても安くできた。広告費も、今回は今回の応募者を中心に声をかければ広告費はいらないと思っている。

活動の思い

若者が集まって寺泊でやりたいことを色々話し合っている。マラソン大会やお祭りの手伝いをしたり、地域おこし系のイベントに会のメンバーが数人出ていたりする。寺泊の地域にいろんな知識技術を持っている人がいっぱいいると思った。自分一人じゃできないけど、仲間が集まればなんでもできる。近所のおじさんは「まずいっけやってみんせ（まずはやってみろ）」と言ってくれる。どんどんチャレンジしたい。

展望

みんなが挑戦・失敗ができる多目的シェアスペースを作りたい。
今は昔の使われていない海の家をリノベーションして、例えば、店を出したいけどいきなり店を持つのは不安という人でも1日だけパン屋さんをやったり、居酒屋をやったりできる空間を作りたい。

補助金活用のコツ

・初期投資に活用し、今後は補助金がなくても利益が出るような事業構成
・骨の部分ではなく、補助金がもらえたら活動が飛躍的に伸びていくという部分に使う。芯の部分は企業さんからの融資だったり自分たちでお金を出すとかでお金を集めていかないと、補助金に依存してしまう。

上村教授 コメント

地域おこし系の活動の中でお手本のような育ち方で感動した。補助金はあてにするものじゃなくて上手に使うものだという気づきがある。市民活動を超越しているが、遠慮なく頼ってほしい。市としても若者の活動とか地域の活性化とか、応援したいけどなかなか出せない。ただ、出す先を見ていて、本気でやっていて、補助金なんてなくてもやるなっていうところにむしろ交付している。

団体名

摂食障害親の会・向日葵の会

活動目的

摂食障害の子どもを持つ親が直面している日常に起こる事柄で、心配や不安を話すことを通して、参加者皆で考えながら、子どもにどの様に関わっていくかを気付いていくこと。また、子どもの回復を通して、親自身も自分を見つめ直して様々なことに気付いていくこと。



補助事業の概要

【補助事業名】 聴こう、話そう、摂食障害
【実施概要】 参加者を広く一般から募り公開講座を開催する
【実施期間】 平成30年6月末～11月中旬
【事業費総額】 158,620円（うち補助金額155,000円）
【補助金の使途】 謝金、広告印刷費、郵送料、講座運営費

背景・課題

摂食障害の子どもを持ち、毎日家庭で起きることに日々悩み苦しむ途方に暮れて、切ない思いをされているお母さんが誰にも相談できずにいるという現代の社会がある。摂食障害の子ども本人が苦しく辛く切ないのは言うまでもないが、その子を支えている母親や家族も同様なので、家族を支えたり相談できたりする場所がまずは必要であるとする。

ミッション

この摂食障害親の会・向日葵の会が、日々子どもと向き合うお母さんが心の内を語りながら、お母さん自身の心が助かっていくチャンスを作る場所であること。お母さんが安心して生きて子どもに向き合うことができる会であること。

成果

登壇者からの経験談や、代読による事前に寄せられた体験談には、会場からも深い頷きと共に大勢の人が涙して聴いていた。質疑応答の時間には、参加者が今家庭で起きていること、直面していることについて赤裸々に発言があり、1つ1つの発言にゲストで招いたカウンセリングルームの所長や、臨床心理士、実際に回復した娘を持つ会の相談役や代表から色々な話やアドバイス等が出た。その後、10組のご家族が会の定例会に通ってこられるようになり、心が助かっていく場所、ひいては回復への道を歩いている。

今後の課題

ボランティア活動で成り立っている会なので、運営に必要な経費を捻出していく必要がある。会員の参加費で運営しているが、先々に存続していくために、ボランティアだけで成り立っていけるかどうか問われる。

展望

今後もこの長岡の地から発信していきたい。最終目標は、助かったお母さんたちが、苦しんでいるお母さんたちを助けていく。そして助かっていくお母さんが今度は助ける側にまわり、それが繰り返されながら会が存続していけるようになること。

補助金を活用した感想

ボランティア活動で成り立っている向日葵の会が、補助金を頂いて事業を行ったことで、新潟県内全域に親の会の存在や活動を周知することが出来た。知名度もなく、存続すら危ぶまれたときに、たまたま協働センターの登録更新の連絡を受けた電話でその話をしたことがきっかけとなり、協働センターのスタッフから補助金活用の方法を教えてもらった。補助金をもらうのはハードルが高いと懸念していたが、こちら側のしっかりとした意思とやる気と行動力があれば、補助金交付も不可能ではないのだと知った。

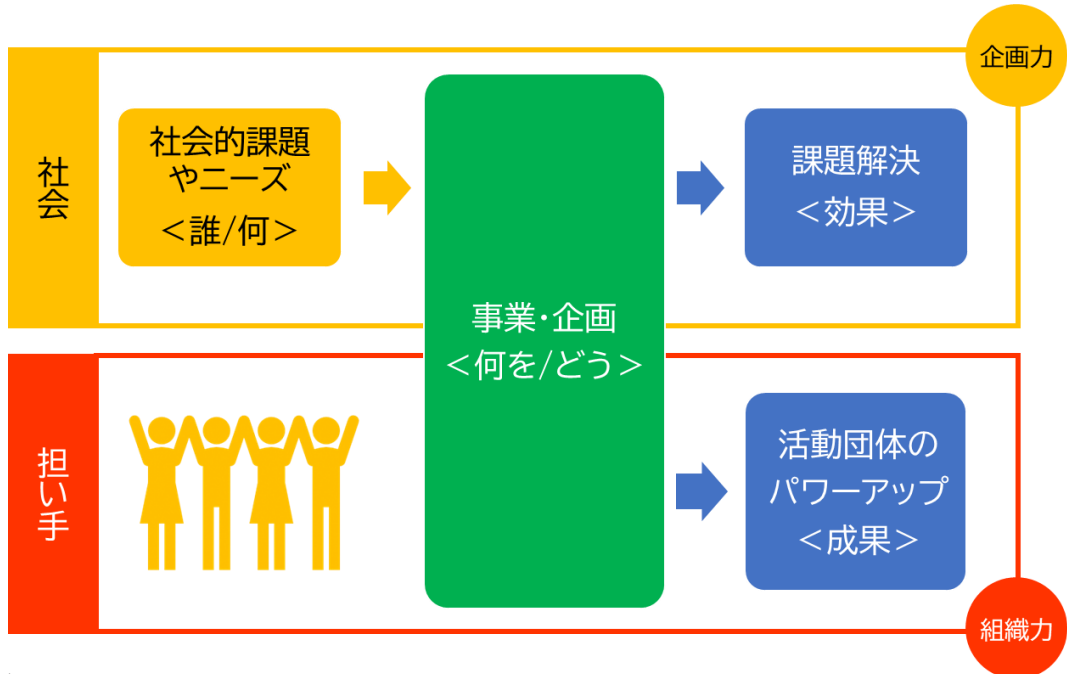
上村教授コメント

市民活動推進事業補助金は、どこの課にも当てはまらない活動の駆け込み寺だと思っている。何でも相談に来てほしい。そのために協働センターがあって、スタッフがいる。そこからやる気と行動力あるみなさんをなるべく応援してあげたい。これこそ公益的な事業だが、毎年同じようには出していけないので、工夫しながらなんとか知恵を絞っていく必要がある。

テーブルトーク

テーブルトークテーマ「団体がパワーアップする補助金の賢い使い方を考えよう」

補助金を活用して事業を実施すると同時に、団体のパワーアップにつなげるにはどうしたらよいかを話し合いました。



<主な意見>

- ・スタッフのスキルやモチベーションが向上した。
- ・リーダー養成講座を実施したらスタッフが増えた。
- ・補助金で交通誘導経費をまかなえたため、イベント本体にコアな人員を集中させることができた。
- ・道具を揃えることができ、活動が広がった。
- ・団体や活動を知ってもらえるようになり、地域とのつながりや信頼感が生まれた。

上村教授より全体を通して

補助金はもらうことが目的じゃなくて、みんながもっと頑張るために勇気を出すための踏み台のようなもの。発表3団体はみんな素晴らしい活動と発表だった。参加者の方も色々な人の話を聞いて良かったと思う。信念を持って色々な活動をしている人や、問題意識をもって色々な事を面白がって頑張っている人がいるんだということを共有できたことが素晴らしかった。仲間づくりは、こうした場を通じてじわじわ広がっていくことが大事。単純に数を増やそうとかそういうことだけじゃない。今日はいい会になったと思う。

担当：

長岡市市民協働推進部市民協働課市民協働係
〒940-8501 新潟県長岡市大手通1-4-10
TEL 0258-39-2291
FAX 0258-39-2308